

東京 IPO 特別コラム

2021年5月28日 Vol.178

出揃った6月のIPO銘柄

例年通り5月のIPO市場はお休み状態。IPO銘柄にご関心をお持ちの投資家の皆様にとっては寂しい時期が続いてきたのではないのでしょうか。4月後半から5月の連休明け後までの株式相場全体は調整含みの展開を余儀なくされてきましたが、6月からはまたIPO市場が始動します。昨年の3月はコロナショックに見舞われ多くのIPO銘柄に公開価格割れする波乱がありました。今年も順調な消化が続いているようです。ただ、順調な初値形成が見られた銘柄にもその後は割高感と全体相場の調整の動きに連動し調整ムードが広がっており、投資家各位のスタンスも慎重なものとなっているように感じられます。一方で業績好調が伝えられたような銘柄は人気を集めており、銘柄を選別する動きが随所に見出せます。

既に6月のIPOは2日のメイホーホールディングス(7369・M)から30日のプラスアルファコンサルティング(4071・M)まで23銘柄が発表されており、昨年の6月IPOが6銘柄だったのに対して大幅に増加。前半やや遅れ気味だった書類作成などの手続きが進捗したのか例年に比べても6月にしてはやや多いようです。この結果、昨年の6月までのIPO銘柄数は34銘柄だったのに対して今年は54銘柄と大きく増加。このままのペースでいくと年間では100銘柄を上回ることが予想されます。そうなってくると心配なのはIPO市場の需給です。全体相場の調整局面の中でのIPOラッシュは更に反転相場に水を差す恐れもあり、特に22日から25日にかけて12銘柄(うちマザーズ銘柄は9)が一気にIPOの予定ですので果たして順調に消化できるのか気になるところです。

とは言え、IPO銘柄にご関心をお持ちの多くの投資家各位も1か月余りの空白期を経てまた銘柄研究に勤しみながら有望な銘柄には積極的にリスクテイクされる運用スタンスをお持ちだろうと拝察致しております。昨年は93銘柄がIPOして参りましたがIPOには銘柄ごとに紆余曲折あるとして、筆者の調べではそのうちの36銘柄が27日現在で公開価格も上場初値も上回っており、中には分割実施や業績の上方修正などで大幅に株価上昇を見せた銘柄も存在しています。IPO銘柄には興味深いビジネスモデルや成長への意欲が投資家に示されることで株価にプレミアムが付きやすい上に概ね需給は良好。上場直後から評価が高まる場合もあれば上場後に大なり小なり訪れる調整局面において投資するチャンスも生まれます。

今更ながらIPO銘柄への投資はどのような運用成果が待っているのかはまったく未知数でリスクも付き物。積極果敢に初値やその後の調整場面でリスクテイクするか否かでリターンの度合いも変わって参ります。間もなく始まる6月のIPO相場。投資に際しては各企業から提供された成長性の可能性についての資料を参考にしながら投資家ご自身の判断を基に余裕をもって投資されますよう心掛けて頂きたいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)